

# 平成28年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

### 東北ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて11頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題 1 登録基幹技能者制度に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 建設工事において生産性の向上を図り、品質、コスト、安全面で質の高い施工を確保することが求められている。
2. 現場で直接生産活動に従事する技能労働者、とりわけその中核をなす職長等の果たす役割が重要となっている。
3. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた者である。
4. 登録基幹技能者は、いわゆる普通の職人として、元請の計画・管理業務に参画することが期待されている。

**問題 2 登録基幹技能者の仕事の内容に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 現場の状況に応じた施工方法等の提案、調整等を行うことができる。
2. 現場の作業を効率的に行うための技能者の適切な配置、作業方法、作業手順等の構成を行うことができる。
3. 全ての現場での他職種の技能者に対する施工に係る指示、指導を行うことができる。
4. 前工程・後工程に配慮した他の職長との連絡・調整を行うことができる。

**問題 3 登録基幹技能者制度の概要に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 国土交通大臣の登録を受けた機関が実施する登録基幹技能者講習の修了者は、登録基幹技能者として認められ、経営事項審査においても評価の対象となる。
2. 近年、公共工事の「総合評価方式」での減点対象項目および下請企業の「不良技能者認定制度」にも活用されている。
3. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力、豊富な知識、現場を効率的にまとめるマネジメント能力を備え、専門工事業団体の資格認定を受けた技能者である。
4. 登録基幹技能者の活用により、登録基幹技能者の確保・育成に努める優良な専門工事業者の受注機会の拡大、さらにはそれを通じた建設業界の担い手の確保・育成に大きく寄与することが期待されている。

問題4 建設技能労働者目標像の各職階の名称に関して、最も不適当なものはどれか。



1. ①訓練生
2. ②一般技能工
3. ③職長
4. ④登録基幹技能者

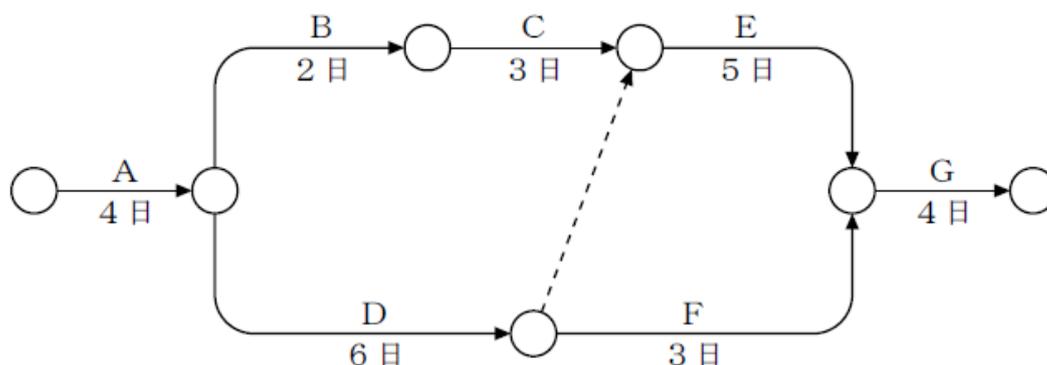
問題5 登録基幹技能者の評価・活用に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 技能労働者の位置づけを総合評価方式の評価対象とすることにより、登録基幹技能者を積極的に育成している企業が元請企業から活用される機会が増え、優良な専門工事業者の確保、優良な技能者の処遇改善につながり、ひいては若年者の入職促進、技能の伝承につながる。
2. 公共工事の品質確保やインフラの維持管理のため、中長期的な担い手が求められる中、登録基幹技能者制度は技能労働者のレベルアップにつながる。また、登録基幹技能者となった技能労働者が若手の目標となり、担い手の育成にも寄与する。
3. 資格保有者が少ないこと、また、職種により登録者数に偏りがあることから、工事によっては、登録基幹技能者の手配に苦労している実態がある。登録基幹技能者制度のさらなる普及により認定者が増加し、地域差等が解消されれば、元請業者だけでなく、下請業者を含めて施工能力を評価する有効な評価指標となる。
4. 技能者の中で登録基幹技能者を目指すことは高度であることから、本制度の継続は、至難であり、今後、優良な技能者を育成することがほぼ不可能であると考えられる。

問題6 OJT教育における一般事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工場の現場で働く技能者を対象とした、必要最小限のマナー・知識及び技能について習得させるため作業着の着用方法および安全具の付け方はOJTに有効である。
2. 現場（職場）の長である登録基幹技能者や、職長クラスが部下に対しての指導・教育に使用する目的のひとつにOJTがある。
3. 一般に工事現場におけるOJTといっても、規模・内容・期間等それぞれ異なっており、部下の能力にあった指導をすることよりも、現場の工期に合わせた施工を行わせることが大切である。
4. OJTとは、職場の上司が部下の育成のために、日常の仕事を通して行う指導・教育のことであり、OJT教育は、日常仕事を離れて行われる集合研修・教育とは異なる。

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、ネットワーク式工程表である。
2. この工程表のクリティカルパスは、A→B→C→E→Gである。
3. このプロジェクトの所要日数（工期）は、19日である。
4. この工程表における点矢線はダミーである。

問題8 登録基幹技能者の関連条文に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 請負契約約款
2. 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（抄）
3. 労働安全衛生法（抄）
4. 建設業法（抄）

**問題 9 建設業法における「元請負人の請求による工期の短縮」の内容に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 元請負人は、特別の理由により工期を短縮する必要があるときは、下請負人に対して書面をもって工期の短縮を求めることができる。
2. 元請負人は、特別の理由により工期を短縮する必要があるとき、その日数は元請負人と下請負人とが協議して定める。
3. 工期を延長すべき場合において、特別の理由があるときは、元請負人と下請負人とが協議の上、通常必要とされる工期の延長を行わないことができる。
4. 工期を延長すべき場合において、必要があると認められるときは、建築主と下請負人とが協議して請負代金額を変更する。

**問題 10 ブレーンストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. BS 法とは、アレックス・F・オズボーンによって考案された裁判の方法のひとつであり、犯人決定、集団事件発想法、事件解決抽出ともいう。
2. BS は、集団でアイデアを出し合うことによって相互交錯の連鎖反応や発想の誘発を期待する技法である。
3. アイデアの質にこだわらず、アイデアの量産することを目的としている。
4. 誰かのアイデアに対してそこから連想されるもの、その他のアイデアとの結合を意識することで様々なアイデアへと発展させることができる。

**問題 11 左官下地での条件に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 左官の下地は、仕上げ材料と有効な付着強度が得られるものであること。
2. 左官の下地は、仕上げ材料よりも強度・剛性が小さいこと。
3. 左官の下地は、仕上げ材料と有害な化学反応を生じないこと。
4. 左官の下地は、仕上げ材料の施工に適した平面状態、吸水性を有すること。

問題 1 2 左官下地と塗り層における劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 図 1 は乾湿ムーブメント（モイスチュアムーブメントとサーマルムーブメント）を示している。

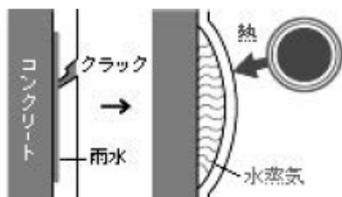


図 1

2. 図 2 は、相対的ムーブメント（ディファレンシャルムーブメント）を示している。

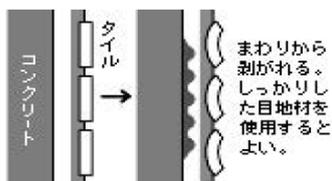


図 2

3. 図 3 は熱冷ムーブメント（サーマルムーブメント）を示している。

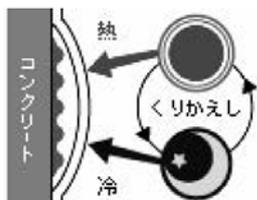


図 3

4. 左官下地と左官塗り層との寸法変化（ムーブメント）は、仕上げ初期にのみ発生する。

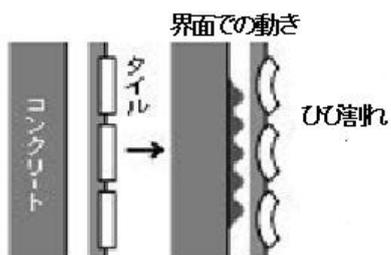
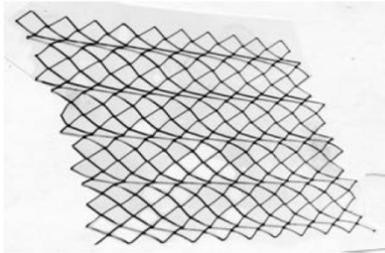
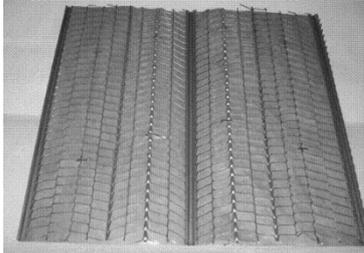
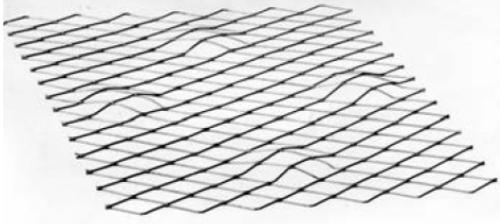


図 4

問題 1 3 塗り壁の故障の原因・内容・是正措置に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 材料の富調合は、剥離・損傷が発生しやすくなるので、調合表に順じた適正調合が必要となる。
2. エフロッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。
3. 防凍剤の誤った使用は、花咲き・噴裂を発生するので、防凍剤の使用適正化をはかる。
4. 極寒期の施工は、硬化不良を発生しやすいので、工事中止にするとよい。

問題 1 4 1 から 4 のラスの名称と図の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか

	ラスの名称	図
1.	ラスシート	
2.	防水紙付きリブ系ラス	
3.	こぶラス	
4.	リブラス	

問題 15 仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせで、最も不適当なものはどれか。

	仕上塗材の種類	呼び名
1.	内装セメント系薄付け仕上塗材	内装薄塗材C
2.	内装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材	内装薄塗材E
3.	内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材	内装薄塗材G
4.	内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材	内装薄塗材W

問題 16 仕上げ塗りの適用部位に関する記述に関して、最も不適当なものはどれか。

○：適用できる部位 ×：適用できない部位とする。

	仕上げ塗りの種類	部位			
		外壁	内壁	天井	床
1.	掻き落とし粗面仕上げ	○	○	○	×
2.	セルフレベリング材塗り	×	×	×	○
3.	せっこうプラスター塗り	○	○	○	×
4.	色モルタル仕上げ	○	○	○	○

問題 17 左官用語の解説に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 防水モルタルの施工は、主として左官工事業者が行う。
2. ブリージング (bleeding) とは、シーリングの上に塗装をした場合にその部分だけが黒く滲 (にじ) んでくる現象。
3. ドライアウト (dry out) とは、モルタルが水和反応を完了するために必要な水分が下地に吸収され不足し、完全硬化できない状態になることである。
4. グラウト (grout) とはひび割れ部にセメントペースト等の結合材を注入すること。

問題 18 床の左官工事に関する記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 防水モルタルは、防水性のあるセメントモルタル塗りで仕上げることである。
2. セルフレベリング材塗りの設計塗り厚は、20mm としなければならない。
3. モルタル防水の施工は、防水工事業者の許可が必要である。
4. シーリングとは、水や空気を完全に密封することである。

**問題 19 建設工事の特殊性と施工管理に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 降雨、出水、土質など天候・自然現象の不確定要素に左右される。
2. 建設工事は、受注生産で個々の工事は一つ一つ特徴があり異なったものであり、大量見込み生産ができない。
3. 建設業では、建設する建物が小さなものから大きなものまで様々であるが、企業格差は他の産業よりも小さい。
4. 建設工事は、目的物が土地の上に固着して作られることから築造されたものは互換性がなく、不良なものの処置がしにくい。

**問題 20 仮設備計画に関して、最も不適当なものはどれか。**

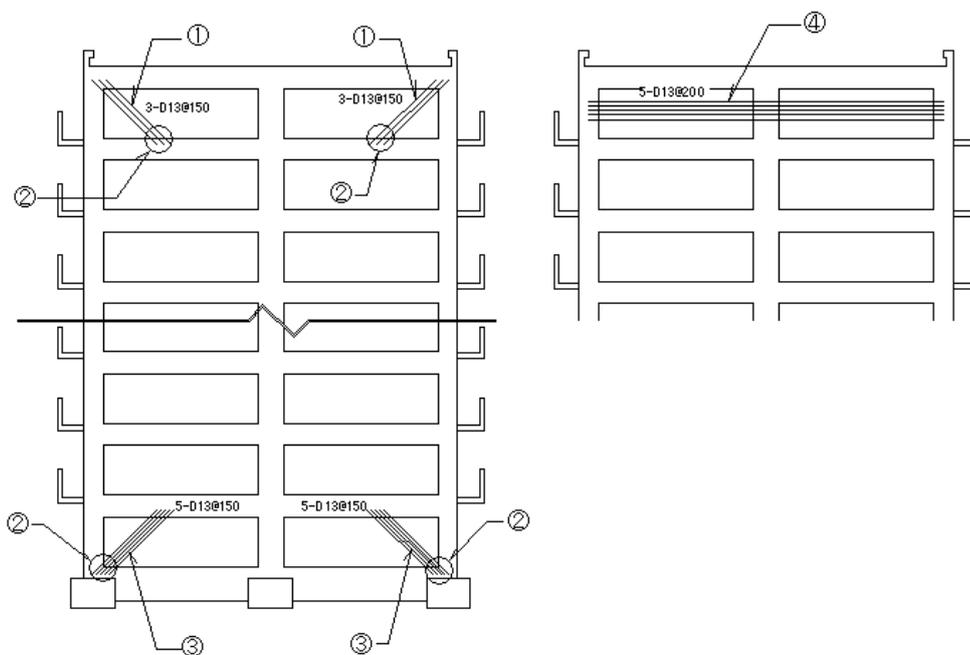
1. 仮設備という呼び方につられて、ややもすると、手を抜いたり、おろそかにされやすく、事故の原因となり、かえって多くの費用が必要となる場合もある。
2. 仮設備は、使用目的、使用期間等に応じて、その構造を設計し、強度計算を行う。
3. 仮設備工事は、工事の目的とする構造物ではなく、臨時的なものであって工事完成後原則として取り除かれるものである。
4. 仮設備は、本工事とは異なり、指定された設計図はなく、大規模で重要なものであっても、発注者から規模・仕様等を指定されることはない。

**問題 21 建設工事費の構成に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 直接仮設費とは、各工事種目に共通の仮設に要する費用である。
2. 一般管理費とは、工事施工に当たる受注者の継続運営に必要な費用としての一般管理費（本支店経費）と付加利益を指す。
3. 建設工事費は工事目的物を作るのに直接要する費用である直接工事費のほかに、それを実現させるためにかかる諸々の間接的経費から構成されている。
4. 現場管理費は工事施工に当たり、工事現場を管理運営するために必要な費用である。

問題 2 2 鉄筋コンクリート造の建物で、壁鉄筋の補強を示しています。この図に関して、**最も不適当なものはどれか。**

1. ①について、建物の上階は日射熱を受けやすく、コンクリートが膨張することにより、ハの字型にクラックが発生しやすくなる。そのため、逆ハの字の方向に壁鉄筋を補強すると効果がある。
2. ③は、建物の最下階の壁で、上階の重量を大きく受けるので、端部に壁鉄筋を補強している。
3. ②は、下階と取り合う部分で、下階のコンクリートを打設する前にあらかじめ差し筋をすることにより、下階の柱、梁に定着させることが必要である。
4. ④は、断面の小さい長さのある壁で、垂直に乾燥収縮によるクラックが発生しやすい。よって、水平方向に壁鉄筋で補強している。



**問題 2 3** わが国建設業における労働災害の現状について次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 労働災害減少の主要因のひとつとして、労働安全衛生法等の安全関係法規の整備が挙げられる
2. 建設業は他産業と比べて安全活動が活発なため、労働災害発生率が低い産業である。
3. 死亡災害を事故の型別で見ると、建設工事全体では墜落が約 45%と最も多い。
4. 建設業の安全対策が難しい理由のひとつは、雇用期間が短いため継続的な訓練が実施しにくいことが挙げられる。

**問題 2 4** 法で定められた建設現場における安全管理について次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 作業主任者を選任しなければならない作業の中に、つり足場の解体は含まれる。
2. 複数業者が混在する 70 人の建設現場では、安全管理のために元請業者は統括安全衛生責任者を選任する必要がある。
3. 元請業者は、現場で新たに就労する作業員の安全教育に対して必要なら新規入場者教育を行うことができる。
4. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努めなければならない。

**問題 2 5** 各種労働災害防止について次の記述のうち、**最も不適当なもの**はどれか。

1. 高さが 2m 以上の所で行う作業には、基本的には作業床を設置する。
2. 解体工事は石綿による健康障害防止対策を考える必要がある。
3. リフォーム工事では、既存建物、植栽、側溝等、足場の支障になるものが多く存在するので事前の現地調査が必要である。
4. 居ながらリフォーム工事では多くの場合、電気やガスを止めずに作業を行うので安全である。